

霊峰八海山



教育目標「強く 明るく 伸びる子」

令和8年6月23日

<http://www.minamiuonuma.ed.jp/~oosaki>

ウェルビーイングの向上

校長 板垣 幸男

間もなく7月に入ります。令和8年度の当校の教育活動が、保護者・地域の皆様、はなさき本部、関係機関のご協力・ご支援により順調に進んでおりますことに、心より御礼申し上げます。子どもたちはこれまで、地域での学びを通して新たな知識の習得や郷土愛を高める等、多くの成果をあげております。また、全校の一体感も醸成されています。大崎小学校の子どもたちのさらなる成長を目指し、希望の花が咲き続くよう職員一同尽力する所存です。今後ともご協力・ご支援の程よろしくお願いいたします。

さて、現在、学校教育は閣議決定された第4期教育振興基本計画（R5～R9）に沿って進められています。基本的な考え方として、「持続可能な社会の創り手の育成」「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2つが示されています。今回は、ウェルビーイングの向上についてふれていきます。

○ウェルビーイングとは

- ・身体的・精神的・社会的によい状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念
- ・多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられるよい状態にあることも含む包括的な概念。

○なぜウェルビーイングが求められているのか

- ・経済先進諸国において、経済的な豊かさのみならず、精神的な豊かさや健康まで含めて幸福や生きがいを捉える考え方が重視されてきている。
- ・OECD（経済協力開発機構）の学びの「羅針盤2030」では、個人と社会のウェルビーイングは、「私たちが望む未来」であり、社会のウェルビーイングが共通の「目的地」である。

○これらを踏まえた日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- ・日本の社会・文化的背景を踏まえ、日本では、自己肯定感や自己実現などの**獲得的な要素**と、人とのつながりや利他性（他人のために行動する概念）、社会貢献意識などの**協調的な要素**とのバランスを取り入れ、日本社会に根差した「**調和と協調**」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させることが求められている。

子どもたちのウェルビーイングを高めるためには、学校全体のウェルビーイングが重要です。また、子どもたち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていき、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していく姿の実現を目指しています。大崎小学校では、現在進めている地域とともに歩む学校づくりを通して、子どもたち、保護者・地域、教職員のウェルビーイングの向上を図っていきます。